

**POINT 市の財政状況③**  
市債残高の状況

会計区分	平成22年度末残高	平成21年度末残高	対前年度比
一般会計	240億7,520万円	249億9,355万円	▲9億1,835万円
公共下水道事業特別会計	201億8,893万円	201億7,859万円	1,034万円
その他の特別会計	9,393万円	8,123万円	1,270万円
合計	443億5,807万円	452億5,337万円	▲8億9,530万円

平成22年度末における、今後支払わなければならない市債の残高は、443億5,807万円となり、前年度を約9億円下回りました。

**将来負担比率の状況**

平成22年度	平成21年度	早期健全化基準
80.8%	85.2%	350.0%

この結果、健全化判断比率のうち、『将来負担比率』は、80.8%（前年度に比べ4.4%改善）となり、早期健全化基準を下回っています。

**POINT 市の財政状況②**  
平成22年度の公債費の状況

会計区分	平成22年度	平成21年度	対前年度比
一般会計	32億1,382万円	32億7,913万円	▲6,531万円
公共下水道事業特別会計	13億5,515万円	17億3,530万円	▲3億8,015万円
その他の特別会計	631万円	641万円	▲10万円
合計	45億7,528万円	50億2,084万円	▲4億4,556万円

※平成21年度の一般会計公債費のうち2,857万円、公共下水道事業特別会計公債費のうち4億3,720万円は繰上償還分です。

平成22年度の公債費は、一般会計と3つの特別会計で、45億7,528万円となりました。

**実質公債費比率の状況**

平成22年度	平成21年度	早期健全化基準	財政再生基準
14.6%	15.2%	25.0%	35.0%

この結果、健全化判断比率のうち、『実質公債費比率』は、14.6%（前年度に比べ0.6%改善）となり、早期健全化基準、財政再生基準を下回っています。

**市の貯金はどのくらい**

ところで、支出を市民の税金などで賄いきれないときには、市の貯金を下ろすと言いましたけど、私たちのまちの貯金はどのくらいあるんですか？

市は、もしものときや特別な用途に使うことを目的に、19の基金等を積み立てています。このうち、台所事情が苦しいときに使うことができるのは、3つの基金で、その残高は約12億円あります。

市は、市民のためにどうしても必要な事業をしたり、急に収入が減ってしまった時のために、12億円の貯金をしていることになるんですね。

12億円は大金だけど、まちにとっては多いの？少ないの？

市は今年、3つの基金等から約5億円をおろすことにしているんだ。

もしもこの先同じペースで使っていくと、再来年には無くなってしまうから、12億円は、決して多いとは言えない額なんだよ。

POINT 市の財政状況④  
市がもしものときに使える基金等（財源調整用基金等）は、財政調整基金、減債基金の一部（ルール外）、北海道市町村備荒資金組合超過納付金の3種類となっています。  
平成22年度末の財源調整用基金等の残高は、3つの基金等を合わせて、12億567万円ですが、市は、平成23年度当初予算で、このうち5億4,000万円を取り崩すこととされています。

基金等名	平成22年度末残高
財政調整基金	6億3,466万円
減債基金の一部	3,676万円
北海道市町村備荒資金組合超過納付金	5億3,425万円
合計	12億567万円

えーっ？ 再来年に無くなってしまうかもしれないなんて不安だよ。

でも、市は、3つの貯金のほかに、もしものときに使えるお金を持っているんだ。

12億円だけじゃないんですね！

さつき、市には、一般会計と8つの特別会計があつて、どの会計でも赤字が生じていないと言ったのを覚えていますか？

はい。たしかどの会計でも収入が支出を上回っていると言っていましたよね？

そうですね。そのうち、一般会計の黒字約7億円は、貯金ではありませんが、今後のやりくりに使えるお金なんです。

なるほど。銀行に預けている貯金ではなく、我が家でするところのたんす預金のようなものなんです！